

SEZON
MUSEUM
OF
MODERN
ART

平成28年5月

関係者各位

鴻池朋子展「根源的暴力 Vol.2 あたらしいほね」開催

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、セゾン現代美術館が企画協力をいたします鴻池朋子展「根源的暴力 Vol.2 あたらしいほね」を、2016年7月より群馬県立近代美術館にて開催いたしますのでご案内申し上げます。

2015年秋、神奈川県民ホールギャラリーにて鴻池朋子の6年ぶりとなる個展「根源的暴力」が開催されました。自然と人間の間に出現した芸術の根源的な力を問い直す本展は、今年から新たな土地を巡り、その場の感触をとりこみながら、さらなる変化を遂げてゆきます。

貴媒体にてお取り上げくださいますようお願い申し上げます。

敬具

◆ 主催

群馬県立近代美術館（担当：田中龍也）

〒370-1293 高崎市綿貫町992-1 群馬の森公園内

Tel. 027-346-5560 Fax. 027-346-4064 mail: info@mmag.pref.gunma.jp

◆ 企画協力

一般財団法人セゾン現代美術館 事務局（担当：坂本里英子）

TEL: 03-5579-9725 FAX: 03-5579-9726 mail: rieko@sma.or.jp

〒104-0061 東京都中央区銀座1-6-5 銀座Bビル5階

鴻池朋子展「根源的暴力 Vol.2 あたらしいほね」

会場：群馬県立近代美術館

会期：2016年7月9日（土）－8月28日（日）

主催：群馬県立近代美術館

企画協力：一般財団法人セゾン現代美術館

協力：VOLCANOISE

昨年の秋、神奈川県民ホールギャラリーにて、鴻池朋子の6年ぶりの個展となる「根源的暴力」が開催されました。2011年3月11日の震災以降、制作を一旦停止し、自然の驚異にさらされた人間の在り方を見つめ続けてきた鴻池は、さまざまな土地を訪れ、人に会い、その風土や人間のエネルギーに触れた「手が見た」ことを形にするかのように、牛革や粘土、裁縫など新たな素材と手法をとり入れた作品の数々を発表しました。人間の思索や現象のみに閉じてしまっているアートに強い意識改革を求め、芸術の始まりに立ち戻って人間がものをつくることを問い直した試みは多くの反響を呼び、特に皮を縫い合わせた支持体に天変地異、臓器、動植物を描いた24メートルに及ぶ《皮緞帳》は、観客の心身を奮わせ強く記憶に残るものとなりました。

本展では、さらに加筆され生々しく変容を続ける《皮緞帳》を始め、新作を交えて、全く新たなインスタレーションに挑む姿をご覧ください。地球の振動を感じた鴻池が「もはやおなじものではられない」と語るように、展覧会はその地の感触をとりこみながら変身し、成長して観客の前に現れます。



皮緞帳（2015）牛革、クレヨン、水彩 H600×W2400cm

撮影：中道淳（ナカサ&パートナーズ）



素焼粘土 (2015) 素焼き粘土、水彩



planet#1 first words (2013) ミクストメディア (FRP、スタイロフォーム他) H60×W50×D50cm



皮緞帳（部分）（2015）牛革、クレヨン、水彩 H600×W2400cm

撮影：中道淳（ナカサ&パートナーズ）



タイトル未定 (2016) ミクストメディア H170×W150×D5cm



タイトル未定 (2016) ミクストメディア H170×W150×D5cm



皮絵 赤い水 (2015) 牛革、ミクストメディア H300×W263cm



着物 鳥 (2015) 羊毛フェルト、鳥の羽、布 H327×W203cm

鴻池朋子展「根源的暴力 Vol.2 あたらしいほね」

会場：群馬県立近代美術館

会期：2016年7月9日（土）－8月28日（日）

休館日：月曜日（7月18日、8月15日は開館）、7月19日（火）

開館時間：9:30-17:00（入館は16:30まで）

料金：一般610円（480円）、大高生300円（240円）

*（）内は20名以上の団体割引料金

*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

*関連企画に関しましては、後日ホームページ等でご案内いたします。

【鴻池朋子（こうのいけ ともこ）プロフィール】



1960年秋田県生まれ、東京都在住。東京芸術大学日本画専攻卒業後、玩具と雑貨の仕事に携わり、その後、絵画、彫刻、映像などの手法を駆使したインスタレーションで現代の神話を描き続ける。個展は2006年「第0章」大原美術館、2009年「鴻池朋子展 インタートラベラー神話と遊ぶ人」東京オペラシティ、鹿児島県霧島アートの森、2014年ウエンディ・ノリスギャラリー（サンフランシスコ）、2015年「根源的暴力」神奈川県民ホールギャラリー他多数。グループショーは2006年アヴァロフ美術館（ギリシャ）、CCP（オーストラリア）、2008年広州トリエンナーレ（中国）、2010年釜山ビエンナーレ（韓国）、ドレスデン州立美術館（ドイツ）他多数。2011年の東日本大震災以降、人間と自然の関係性において深く悩み、それまでの制作を一旦中止し、人間学／動物学、おとぎ話、考古学、人類学、民俗学などの分野の研究者と対談とコラボレーションを重ねる。東北では「美術館ロッジ」、「物語るテーブルランナー」などの継続的なプロジェクトを行っている。